

令和4年度

全国学力・学習状況調査  
福岡県学力調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要



令和4年10月

柳川市教育委員会

# 令和4年度 全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査

## 柳川市立小・中学校 調査結果の概要

### － 目 次 －

<b>I 調査の概要</b> .....	2
1 調査目的	
2 調査対象	
3 調査日及び調査教科	
4 調査内容	
<b>II 学力調査結果の概要</b>	
<b>全国学力状況調査の結果</b> .....	3
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学、理科）	
2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学、理科）	
<b>福岡県学力調査の結果</b> .....	6
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）	
2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）	
<b>III まとめと今後の取組</b> .....	8
1 学力向上に向けた柳川市教育委員会の基本方針	
2 柳川市立各小・中学校の学力向上についての取組の状況と課題	
3 柳川市児童生徒の学力向上に向けての施策と基本構想	

#### ※ 付記

全国学力・学習状況調査の「学力調査問題」及び「児童生徒質問紙調査」「学校質問紙調査」の内容及び令和4年度の全国の調査結果と福岡県の調査結果は、以下のホームページにてご参照ください。

#### ○ 全国学力・学習状況調査の問題及び結果（既に掲載）

国立教育政策研究所

教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」 URL：<http://www.nier.go.jp/>

#### ○ 福岡県学力調査の結果（福岡県教育委員会ホームページに掲載予定）

福岡県教育委員会 義務教育課

「令和4年度全国学力・学習状況調査結果報告書・福岡県学力調査結果報告書」

URL：<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/r1houkokusho.html>

# 令和4年度 全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査

## 柳川市立小・中学校 調査結果の概要

### I 調査の概要

#### 1 調査目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、柳川市教育施策に基づく取組の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査対象

○ 全国学力・学習状況調査	・ 小学校 (全 19 校) 第 6 学年の児童 ・ 中学校 (全 6 校) 第 3 学年の生徒	514 名 468 名
○ 福岡県学力調査	・ 小学校 (全 19 校) 第 5 学年の児童 ・ 中学校 (全 6 校) 第 1 学年の生徒 ・ 中学校 (全 6 校) 第 2 学年の生徒	504 名 465 名 485 名

#### 3 調査日及び調査教科

調査種別	調査日	調査教科及び項目
○ 全国学力・学習状況調査	令和 4 年 4 月 19 日 (火)	国語(小・中)、算数(小)、数学(中)、理科(小・中)
○ 福岡県学力調査	令和 4 年 6 月 21 日 (火)	国語(小・中)、算数(小)、数学(中)

#### 4 調査内容

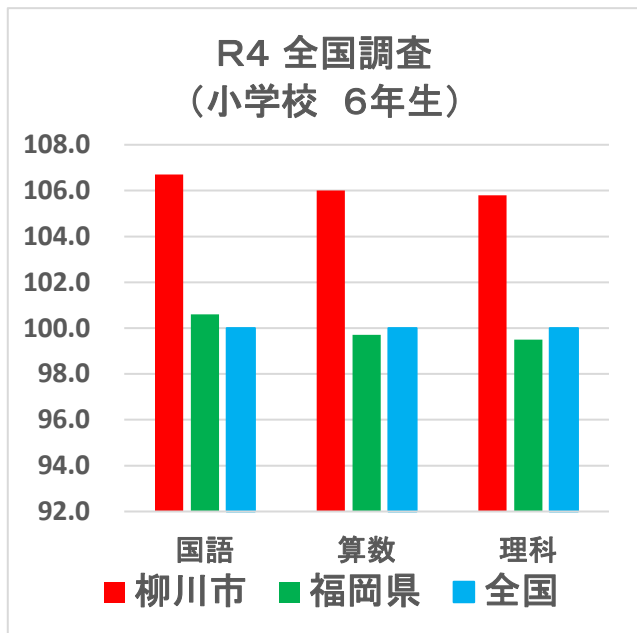
- (1) 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- (2) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のために構想を立て実践し、評価・改善する力 等

## II 学力の結果

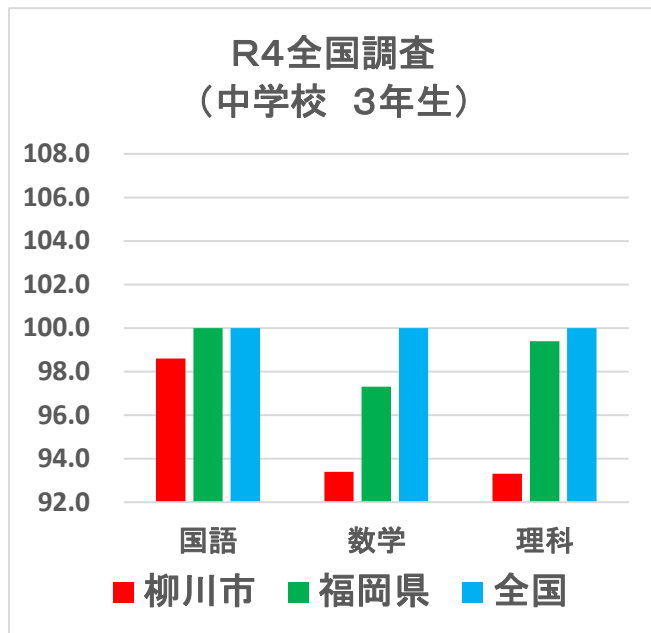
### 全国学力状況調査の結果

#### 1 柳川市の平均正答率（全国比：全国=100%）の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学、理科）

##### 小学校



##### 中学校



小学校	国語	算数	理科
柳川市	106.7	106.0	105.8
福岡県	100.6	99.7	99.5
全国	100.0	100.0	100.0

中学校	国語	数学	理科
柳川市	98.6	93.4	93.3
福岡県	100.0	97.3	99.4
全国	100.0	100.0	100.0

#### 【全体の状況】

- 小学校は、国語、算数、理科ともに全国を上回っており、令和3年度より算数は向上している。また、国語も依然として高い状況にある。（令和3年度の柳川市の平均 国語109.7 算数104.0）
- 中学校は、国語、算数、理科ともに全国平均を下回っている。令和3年度より国語の平均は向上しているのに対して、数学は大きく低下している。（令和3年度の柳川市の平均 国語96.9 数学101.4）
- 平均無回答率（回答していない問題）は、小学校では国語、算数、理科の全ての問題において全国より低い。中学校の無回答率では、理科で21問中2問が全国より高かったが、国語、数学の無回答率は全て全国より低かった。（令和3年度の国語では14問中2問が全国平均より無回答率が高かった）

#### 【小学校】

- 国語は全国より6.7ポイント上回った。評価の観点では、特に、知識・技能の「我が国の言語文化に関すること」、思考力・判断力・表現力等の「書くこと」が高い。
- 算数は全国より6.0ポイント上回った。領域では「数と計算」「図形」、評価の観点では、知識・技能が3.5、思考・判断・表現が4.7ポイント全国より高かった。
- 理科は全国より5.8ポイント上回った。評価の観点では、知識・技能が4.0、思考・判断・表現が3.8ポイント全国より上回った。

## 【中学校】

- 国語は全国より1.4ポイント下回った。令和3年度より1.7ポイント向上した。
- 数学は全国より6.6ポイント下回った。令和3年度より8.0ポイント低下した。
- 理科は全国より6.7ポイント下回った。評価の観点では、知識・技能が4.6ポイント、思考・判断・表現が2.2ポイント全国より下回った。

## 2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）

### （1）小学校国語

- 学習指導要領の内容では、知識・技能、思考力・判断力・表現力等とも全国より正答率が高い。評価の観点の知識・技能では6.5ポイント、思考・判断・表現では2.1ポイント上回り、良好である。
- 問題形式では、選択式、短答式、記述式のいずれも全国より正答率が高い。特に、短答式では、全国より正答率が6.4ポイント上回っていた。
- 「表現の効果を考える」は、正答率が全国を4.5ポイント上回り、良好である。
- 「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」は、正答率が全国を13.1ポイント上回り、良好である。
- 「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける」は、正答率が全国を8.1ポイント上回り、良好である。
- 「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」は、正答率が全国を3.2ポイント下回り、課題である。
- 「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」は、正答率が全国を1.6ポイント上回っているが、正答率が低く課題である。

### （2）小学校算数

- 領域別では、どの領域も全国より正答率が高い。「数と計算」は4.3ポイント、「図形」は5.1ポイント、「変化と関係」は3.7ポイント、「データの活用」は1.7ポイント上回り、良好である。
- 16の問題の内、12の問題が全国を上回っている。全般的に理解の定着が進んでいる。
- 「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる」は、正答率が全国を10.8ポイントも上回り、良好である。
- 「百分率で表された割合を分数で表すことができる」は、正答率が全国を9.8ポイント上回り、良好である。
- 「図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している」は、正答率が全国を4.7ポイント上回り、良好である。
- 「示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」は、正答率が全国と変わらないが、正答率が2割しかなく、課題である。

### （3）小学校理科

- 領域別では、どの領域も全国より正答率が高い。「エネルギー」は1.7ポイント、「粒子」は5.3ポイント、「生命」は2.1ポイント、「地球」は6.4ポイント上回り、良好である。
- 17の問題の内、15の問題が全国を上回っている。全般的に理解の定着が進んでいる。
- 「メスシリンダーという器具を理解している」は、正答率が全国を9.8ポイント上回り、良好である。
- 「観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」は、正答率が全国を5.8ポイント上回り、良好である。
- 「日光は直進することを理解している（光の性質をもとに、鏡を操作する）」は、正答率が全国を0.5ポイント上回っているが、正答率が3割弱しかなく、課題である。

#### (4) 中学校国語

- 思考力、判断力、表現力等では、「書くこと」は正答率が全国より2.9ポイント上回っている。しかし、「話すこと、聞くこと」は3.6ポイント、「読むこと」は2.6ポイント、全国の正答率を下回っている。特に、話す・聞く能力に課題がある。
- 「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」は、正答率が全国を2.9ポイント上回り、良好である。
- 「聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する」が全国より5.5ポイント下回り、課題である。
- 「表現の技法について理解する」が全国より9.3ポイント下回り、課題である。
- 「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える」は、正答率が全国より5.4ポイント下回り、課題である。

#### (5) 中学校数学

- 領域別では、「数と式」は1.5ポイント、全国の正答率を上回っている。しかし、「図形」は、8.9ポイント、「関数」は5.9ポイント、「資料の活用」は2.4ポイント、全国の正答率を下回った。
- 「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」は、正答率が全国を1.7ポイント上回り、良好である。
- 「自然数を素数の積で表わすことができる」は、正答率が全国を17.2ポイント上回り、良好である。
- 「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読みとることができる」は、正答率が全国を10.4ポイント下回り、課題である。
- 「一次関数の変化の割合の意味を理解している」は、正答率が全国を8.6ポイント下回り、課題である。
- 「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」は、正答率が全国を8.0ポイント下回り、課題である。

#### (6) 中学校理科

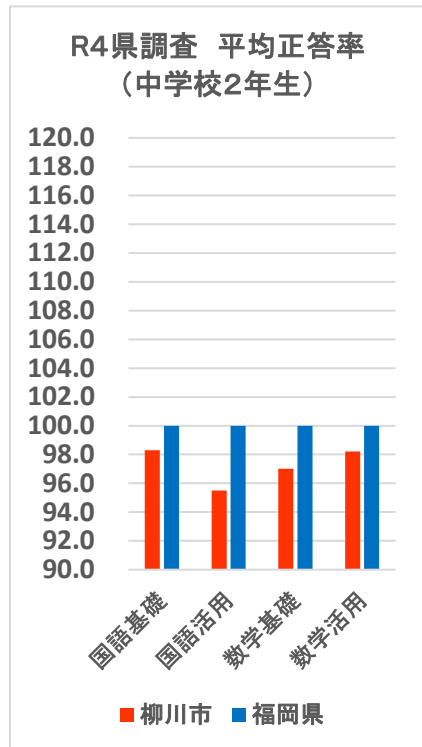
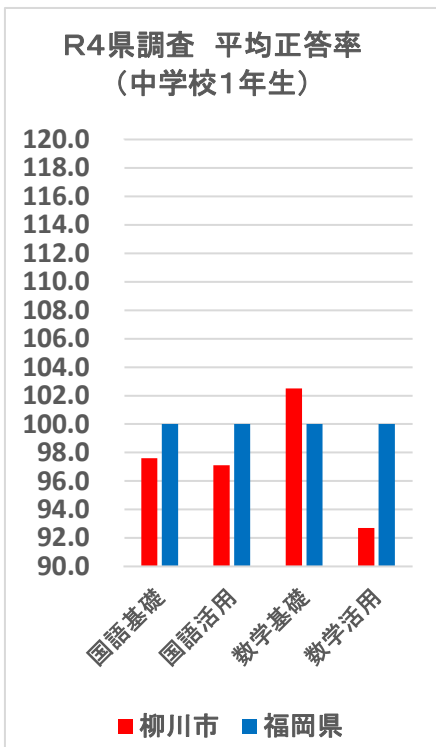
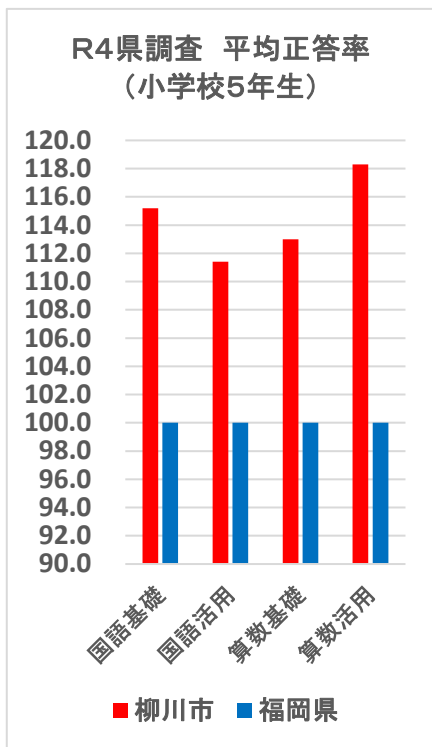
- 領域別では、どの領域も全国より正答率が低い。「エネルギー」は2.5ポイント、「粒子」は2.4ポイント、「生命」は1.4ポイント、「地球」は4.1ポイント下回り、課題である。
- 「節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連づけて、体のつくりと働きを分析して解釈できる」は、正答率が全国を3.9ポイント上回り、良好である。
- 「力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表わし、その力を説明できる」は、正答率が全国を4.4ポイント下回り、課題である。
- 「課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身についているか」は、正答率が全国を5.0ポイント下回り、課題である。
- 「過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるか」は、正答率が全国を9.0ポイント下回り、課題である。

# 福岡県学力調査の結果

## 1 柳川市の平均正答率（県比：県＝100％）の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）

### 小 学 校

### 中 学 校



小学 5年	国語 基礎	国語 活用	算数 基礎	算数 活用
柳川市	115.2	111.4	113.0	118.3
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	15.2	11.4	13.0	18.3

中学 1年	国語 基礎	国語 活用	数学 基礎	数学 活用
柳川市	97.6	97.1	102.5	92.7
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	-2.4	-2.9	2.5	-7.3

中学 2年	国語 基礎	国語 活用	数学 基礎	数学 活用
柳川市	98.3	95.5	97.0	98.2
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	-1.7	-4.5	-3.0	-1.8

### 【全体の状況】

- 小学校5年生においては、国語、算数の基礎・活用問題の全てが県を上回っている（+11.4ポイント～+18.3ポイント）。
- 中学校1年生においては、数学の基礎は県を上回っている（+2.5ポイント）が、他の国語の基礎・活用、数学の活用は県を下回っている（-2.4ポイント～-7.3ポイント）。
- 中学校2年生においては、国語、数学の基礎・活用の全てが県を下回っている。（-1.7ポイント～-4.5ポイント）。

## 2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）

### (1) 小学校5年生

#### 【国語】

- 「目的や必要に応じて自分の考えを理由を挙げて書くことができる」が、県正答率を11.8ポイント上回っている。
- 「話の中心が明確になるように話の構成を考えて、場に応じた適切な言葉遣いで話すことができる」が、県正答率を6.9ポイント上回っている。
- 「段落ごとに、何について、どのように書かれているかを捉えることができる」が、県正答率を4.2ポイント上回っている。

- 「主語と述語との関係に注意して、文を正しく書くことができる」が、県正答率を13.3ポイント上回っているが、期待正答率に8.7ポイント届いていない。

#### 【算数】

- 「与えられた条件から、乗法や除法で必要な分量を求め、判断が正しい理由を説明することができる」が、県正答率を8.9ポイント上回っている。
- 「複合図形の面積の求め方を理解している」が、県正答率を8.2ポイント上回っている。
- 「示された式の中の数の意味を、表と関連づけながら正しく解釈し、それを記述できる」が、県正答率を16.0ポイント上回っている。
- 「割合の関係を、図に表わすことができる」が、県正答率を6.1ポイント上回っているが、期待正答率に8.5ポイント届いていない。

### (2) 中学校 1 年生

#### 【国語】

- 「相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができる」が、県正答率を1.7ポイント上回っている。
- 「目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことができる」が、県正答率を2.7ポイント上回っているが、期待正答率にも20.4ポイント届いていない。
- 「話し合いの参加者として、質問の意図を捉える事ができる」が、県正答率を3.5ポイント下回っている。
- 「複数の叙述を関係付け、登場人物の心情について自分の考えをまとめることができる」が、県正答率を1.3ポイント下回っており、期待正答率にも33.7ポイント届いていない。

#### 【数学】

- 「平行四辺形を対角線で分けたときの、合同な三角形について理解している」が、県正答率を1.3ポイント上回っている。
- 「基準量と比較量から、割合を求めることができる」が、県正答率を2.5ポイント下回っており、期待正答率にも59.2ポイント届かない。
- 「資料から、必要な情報を適切に読みとることができる」が、県正答率を1.2ポイント下回っており、期待正答率にも67.2ポイント届かない。
- 「他者の考えが正しいかどうか割合の考えを用いて判断し、その理由を記述することができる」が、県正答率を5.7ポイント下回っている。

### (3) 中学校 2 年生

#### 【国語】

- 「自分の考えが明確になるよう話すことができる」が、県正答率を2.4ポイント上回っている。
- 「物事の様子について、描写を基に捉えることができる」が、県正答率を3.6ポイント上回っている。
- 「目的に応じて必要な情報に着目し、内容を解釈することができる」が、県正答率を1.4ポイント下回っており、期待正答率にも36.1ポイント届いていない。
- 「文章の内容を、上述を基に捉え、要旨を把握することができる」が、県正答率を3.8ポイント下回っており、期待正答率にも30.5ポイント届いていない。

#### 【数学】

- 「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」が、県正答率を1.0ポイント上回っている。
- 「長方形の縦の長さや面積の関係を『…は…の関数である』という形で表現することができる」が、県正答率を3.3ポイント下回っており、期待正答率にも35.3ポイント届いていない。
- 「度数分布表をもとに、ある階級までの累積度数を求めることができる」が、県正答率を9.4ポイント下回っている。
- 「三角形の面積を二等分する線分の作図方法を説明することができる」が、県正答率を1.5ポイント下回っており、期待正答率にも25.9ポイント届いていない。



### Ⅲ まとめと今後の取組

#### 1 学力向上に向けた柳川市教育委員会の基本方針

柳川市総合計画、柳川市教育大綱、教育施策に基づき、小・中学校が連携した「中学校区スタンダード」の実践による基盤づくりを図りながら、確かな学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等）を身につけさせ、未来の柳川を担う子どもを育成すること。

#### 2 柳川市立各小・中学校の学力向上についての取組の状況と課題

##### (1) 小学校

- 全小学校で取り組んできたR元年からR3年度の共通実践項目の「国語科教育の充実」を掲げ、教師の学びの場を校内研修(主題研修または一般研修)に位置付けたり、学習のまとめを徹底したりしたことが、今年度の学力調査でも全国や福岡県を大きく上回った要因のひとつと考えられる。
- 柳川市教育研究所において作成した「授業づくりQ&A」を活用したことが効果的だったと考えられる。また、集団や自己の生活及び人間関係をよりよく形成することを大事にする特別活動を重視して代表委員会活動を充実させたことも、学力向上の基盤となる学ぶ意欲を育む上からも効果的だったと考えられる。
- R4年度の共通実践項目の「算数科教育の充実」に向けて、確かな教材研究に基づく授業実践の積み上げと、学力調査結果の分析をもとにした授業改善が大切である。併せて、校内研修等で授業改善への取組の共通理解と共通実践の徹底を図る必要がある。

##### (2) 中学校

- 全国学力調査の国語では、R3年度と比べて伸びてきている。全中学校において思考力を育てるための校内授業改善研修会や自分の考えを書く活動を位置づけた授業づくりをしたことが向上につながってきている。
- 学校間、教科間、学年間の格差があるが、全中学校で落ち着いた学校生活を送っている。しかし、全体としてみると学力がやや下降傾向にあるため、教師の授業力のさらなる向上は課題である。授業研究を伴う研修の強化が求められる。
- R4年度の共通実践項目の「小集団を活用した学習指導」に向けて、日常授業の中で、自力解決の充実と個を生かした表現活動の積み上げが大切である。併せて、学力調査結果の分析をもとにした授業改善に向けて、共通理解を図り、実践につなげる必要がある。

##### (3) 小・中学校共通

- 本市が重視している計画・実施・評価・改善の教育活動が各学校で実施されている。また、児童・生徒のよい点や可能性を見だし、評価する取組もしっかりと推進されており、学力向上に結びついていることが伺える。
- 全校において学力分析から確実に学力を向上させるための取組指標や成果指標等の学力向上プランが策定され、取り組まれている。
- 中学校区内において、近接小・中学校と授業研究会等の合同研修会を年間3回以上実施し、共通的に取り組む内容等として「中学校区スタンダード」に取り組んだことが学力向上に結びついていると考える。今後も継続的な取組が求められる。
- 小・中学校共に、学力調査において無回答率が減ってきている。今後も学力向上を支える基盤づくりも大切にしなが、児童生徒が将来の夢や目標を持つことや、自分から違う意見を言い合うことに肯定的に考えることができるようにし、学力向上につなげていく必要がある。

##### (4) 家庭との連携

- 小中が連携した家庭学習の取組等が進んできている。今後さらに家庭との連携を図り、家庭における計画的な学習の進め方の確立や学習時間の確保、読書時間の確保が求められる。
- 本市の児童・生徒の携帯電話やスマートフォンの所有が増える中、それらの使用についてのルールが不十分な傾向が見られる。テレビ視聴やゲーム使用の時間を含めて、PTAと連携しながら取り組む必要がある。

### 3 柳川市児童生徒の学力向上に向けての施策と基本構想

#### (1) 柳川市教育委員会

- |                                  |                 |
|----------------------------------|-----------------|
| ・調査結果の分析                         | ・学力向上のための指導主事派遣 |
| ・各学校の取組状況の確認・指導                  | ・若年教員指導力向上訪問指導  |
| ・9年間を見通した小・中学校の共通実践              | ・授業時数実施状況の確認    |
| ・教育指導室による研修（主幹教諭研修会、研究主任研修会）     |                 |
| ・教育研究所プロジェクト事業の推進（プログラミング教育 小・中） |                 |
| ・授業力向上研修会                        |                 |

#### (2) 小学校

◎学校実態に応じた短期的取組、中・長期的取組の設定

- |   |
|---|
| ・学力調査等の結果分析をもとにした授業改善とCD層への対応           |
| ・教材研究の力を向上させる校内研修の充実(模擬授業等の事前研修の充実)     |
| ・中学校とのつながりを意識した教育活動の実施                  |
| ・若年教師の授業力の向上を図る研修会等(授業力向上研修会、OJT研修会)の実施 |

#### (3) 中学校

◎学校実態に応じた短期的取組、中・長期的取組の設定

- |  |
|--|
| ・全職員による自校の学力分析をもとにした授業改善と学習指導のPDCA力の育成 |
| ・模擬授業や事例研究を含めた授業を伴う実践的な研修の実施           |
| ・学習状況の把握と学習定着度の見取りをもとにしたCD層への組織的対応     |
| ・週案の定着と活用                              |

#### (4) 小・中学校共通の取組

【各小・中学校で共通で実践する項目】

- |   |
|---|
| <小・中学校>                                     |
| ◎地域と連携した「中学校区スタンダード」の実践 ◎GIGAスクール構想の実践化     |
| ◎地域のもの・ひと・ことにつながる学習の組織化 ◎可燃ゴミ減量活動の実践補充学習の徹底 |
| <小学校>                                       |
| ◎算数科教育の充実                                   |
| ・確かな教材研究に基づく授業実践                            |
| ◎組織的、効果的な補充学習                               |
| ・習熟度に応じた個別指導、週時程の工夫                         |
| <中学校>                                       |
| ◎学習指導のPDCA力の育成                              |
| ・単元計画、週案(実施記録)、自己評価、面談                      |
| ◎小集団を活用した学習指導                               |
| ・自力解決の充実→個の考えを生かした表現活動                      |

【教育課程外において】

- |   |
|---|
| ◎補充学習の充実  |
| ・評価に基づく補充学習の充実  |
| ・各学校教育課程外に位置づけているドリルタイム、補充の時間の充実、個に応じた支援              |
| ◎家庭学習の充実  |
| ・家庭学習をしない児童・生徒0%を目指す取組の充実<br>(授業との連動、確実な見取り、保護者との連携等) |
| ・タブレット端末を活用した家庭学習の工夫                                  |

令和4年度  
全国学力・学習状況調査  
福岡県学力調査

『調査結果報告書(柳川市)』

---

令和4年10月発行

発行者 柳川市教育委員会  
福岡県柳川市三橋町正行431番地  
電話0944-77-8852(教育指導室)

---